

発行日:2023年11月7日

# 環境経営レポート

対象期間:2022年9月~2023年8月  
株式会社 高崎ダイカスト工業社

## 目次

I. 組織の概要	P-1
II. 環境経営方針	P-3
III. 環境目標とその実績	P-4
IV. 環境経営計画	P-5
V. 環境経営計画の取組結果と評価 及び次年度の取組内容	P-6
VI. 環境関連法等の遵守状況と評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P-9
VII. 代表者による全体評価と見直しの結果	P-9

## I. 組織の概要

### 1. 事業者及び代表者名

株式会社 高崎ダイカスト工業社

代表取締役社長 上和田 貴彦

### 2. 所在地

〒370-0871 群馬県高崎市上豊岡町571番地の1

URL <http://www.sunfield.ne.jp/~tkd-kmwd/>

### 3. 認証の対象活動範囲

ダイカスト部品及びダイカスト金型の製造に関わる全組織全活動

### 4. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

最高責任者: 代表取締役社長 上和田 貴彦

環境管理責任者: 取締役総務部長 小下 進

担当: EA21推進事務局 原 正人 加藤 輝幸

連絡先: TEL 027-343-2152

FAX 027-344-1165

Eメールアドレス [tkd-info@sunfield.ne.jp](mailto:tkd-info@sunfield.ne.jp)

### 5. 事業の内容・規模

主力製品 アームヘッド(自動車ワイパー部品)

資本金 2,500万円

従業員数 89人 2023.08.31現在

敷地面積 2807㎡

### 6. 生産高(重量)

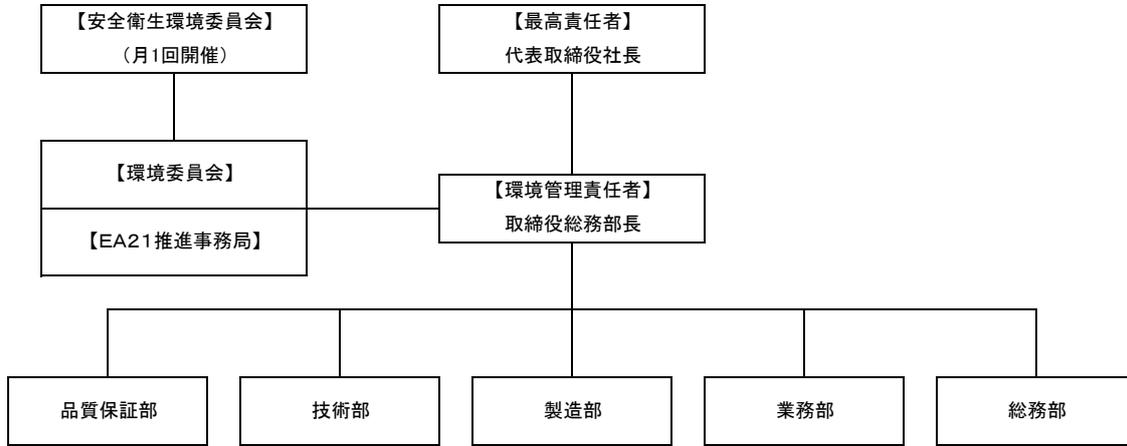
	アルミニウム材料投入重量(t)	
71期(2020年9月～2021年8月)	ADC-12	2076
72期(2021年9月～2022年8月)	ADC-12	1747
73期(2022年9月～2023年8月)	ADC-12	2129



自動車ワイパーのアームヘッド  
(当社主力製品)



## 7. エコアクション21 推進組織図



職名	役割
最高責任者	<p>【代表取締役社長】</p> <p>① 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。</p> <p>② エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器設備・技術技能を含む)を準備する。</p> <p>③ 環境方針を制定する。</p> <p>④ エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。</p>
環境管理責任者	<p>【取締役総務部長】</p> <p>① エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。</p> <p>② エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。</p>
EA21推進事務局	<p>【取締役・総務課係長】</p> <p>事務局として環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所轄する。</p>
安全衛生環境委員会	<p>最高責任者・重役・環境管理責任者・衛生管理責任者・安全管理責任者・5S委員長・事務局・産業医で構成し、月1回安全衛生環境管理者が招集する。安全衛生環境並びに5S委員会活動を統括し、各委員会活動の状況報告や問題点とその対策について協議し、重要事項を決定する。</p>
環境委員会	<p>環境目標の設定、環境経営計画の策定及び進捗管理について協議するほか、環境管理責任者の諮問機関としてEMSの定着・運用について助言する。</p>

## 環境経営方針

### 〔基本理念〕

当社は、地球環境の問題が人類共通の重要課題であることを認識し、事業活動を通じ、環境保全に努め、循環型産業としての役割を担いながら、安心して安全な物づくりを行い、次世代に継承できる環境と社会の実現に貢献します。

### 〔基本方針〕

環境保全活動を推進するにあたり、以下の項目を重点項目として掲げ取組みます。

1. ダイカスト部品の製造を中心とする全ての事業活動において、環境管理体制を整備して、
  - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用燃料削減に努めます。
  - ②水資源の使用量削減のため、冷却用水の使用量削減に努めます。
  - ③廃棄物削減のため、その発生を抑制するとともに再使用の向上に努めます。
  - ④使用化学物質を把握し、使用量の削減に努めます。
  - ⑤不良率を低減し生産効率を高めることにより削減活動を推進します。
2. 環境目標・環境経営計画を策定し、計画的な実践と見直しにより、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
3. 環境に関連する法律・規制及びその他公的基準を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
4. 環境方針は、全社員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識の向上を図ります。
5. この環境方針並びに環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

～この環境方針は社内外に公表いたします～



®環境省

エコアクション21

認証番号 0002630

2019年10月 7日

株式会社 高崎ダイカスト工業社

代表取締役社長

上和田 貴彦

### Ⅲ. 環境目標とその実績

当社の第四次中期環境目標は72期(2021. 9~2022. 8)をBMとし、73期(2022年度)、74期(2023年度)、75期(2024年度)の各期を下表に示す。また実績も併せて記述する。それぞれの使用量、排出量は、材料投入重量1トン当たりで表す。

#### 1. 材料投入重量1トン当たり使用量・排出量

環境目標項目	管理実施項目	単位		72期 (BM)	73期	74期	75期
				21.9~22.8	22.9~23.8	23.9~24.8	24.9~25.8
二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量	kwh/トン	目標	—	717.56	710.31	703.06
			—	—	-1%	-2%	-3%
			実績	724.8	683.9	#DIV/0!	#DIV/0!
	LPガス使用量	kg/トン	目標	—	224.94	222.67	220.39
			—	—	-1%	-2%	-3%
			実績	227.2	212.3	#DIV/0!	#DIV/0!
	ガソリン使用量	ℓ/トン	目標	—	2.47	2.44	2.42
			—	—	-1%	-2%	-3%
			実績	2.49	2.28	#DIV/0!	#DIV/0!
	軽油使用量	ℓ/トン	目標	—	2.76	2.73	2.70
			—	—	-1%	-2%	-3%
			実績	2.79	2.73	#DIV/0!	#DIV/0!
	二酸化炭素排出量 (東京電力(株)排出係数 0.441kg-CO <sub>2</sub> /kWhで計算) R3年度実績値 R4.1.7環境省発表	kg/トン	目標	—	1008.34	998.15	987.97
			—	—	-1%	-2%	-3%
			実績	1019	953	#DIV/0!	#DIV/0!
	総排水量の削減	水使用量	m <sup>3</sup> /トン	目標	—	3.80	3.76
—				—	-1%	-2%	-3%
実績				3.8	4.1	#DIV/0!	#DIV/0!
廃棄物の削減	廃棄物排出量	kg/トン	目標	—	17.47	17.30	17.12
			—	—	-1%	-2%	-3%
			実績	17.6	18.6	#DIV/0!	#DIV/0!
達成率	—	93.7%	#DIV/0!	#DIV/0!			

#### 2. 使用量・排出量

		単位	72期	73期	74期	75期
	材料投入重量	トン	1,747.1	2,129.4		
二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量	kwh	1,266,323	1,456,398		
	電気のCO <sub>2</sub> 排出係数	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	0.441	0.441		
	LPガス使用量	kg	396,964	451,969		
	ガソリン使用量	ℓ	4,355	4,852		
	軽油使用量	ℓ	4,871	5,808		
	二酸化炭素排出量	kg	1,779,485	2,029,901		
総排水量の削減	水使用量	m <sup>3</sup>	6,707	8,713		
廃棄物の削減	廃棄物排出量	kg	30,835	39,695		

IV. 環境経営計画

上記の環境目標達成のための計画として、管理項目および進捗状況を以下に示す。

作成日：2022年11月01日

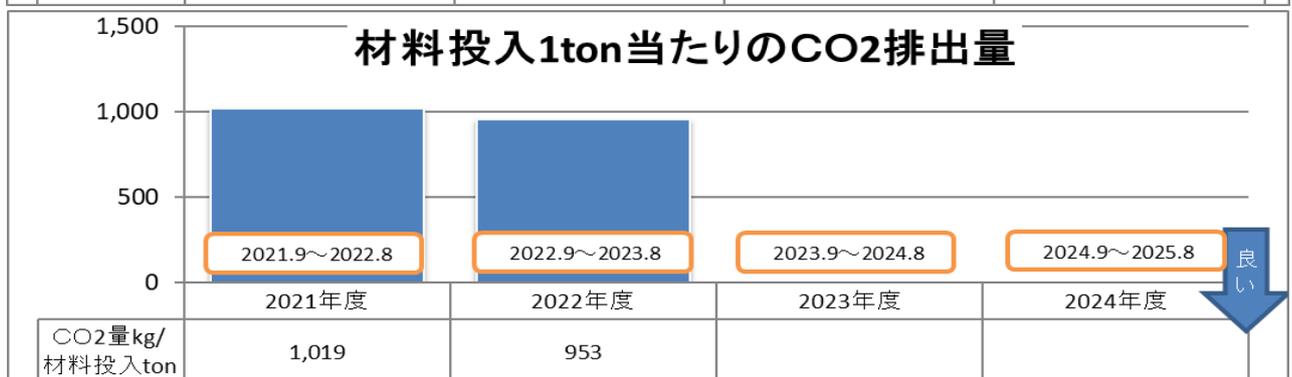
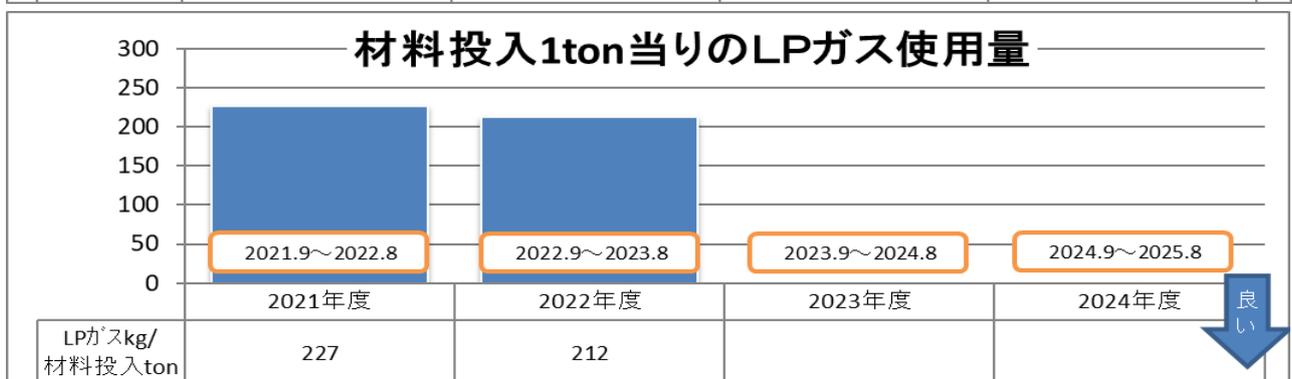
見直し日：2023年08月31日

環境目標	管理項目 実施事項	月別実行計画及び進捗管理 (2023.08.31現在)											担当部署	
		22/9	10	11	12	23/1	2	3	4	5	6	7		8
二酸化炭素排出量の削減	①不要設備の電力OFF・照明具の適切性評価の推進	●					●							製造部
	②空調設定温度改善への挑戦	●			●	●	●	●				●	●	総務課
	③エアコン清掃の実施・省エネ機買換え推進	●			●	●	●	●				●	●	総務課
	④デマンド機器による電力ピークカットの実施	●			●	●	●	●				●	●	総務部
	⑤コンプレッサの適正稼働の評価と改善		●		●		●		●		●		●	製造部
	⑥蛍光管のLED置き換えによる省電力化					●		●		●		●		総務課
	⑦生産計画によるエネルギーロスの抑制	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	業務部
	⑧溶解保持炉の点検・清掃・遮熱加工	●		●		●		●		●		●		製造課
	⑨溶解保持炉の更新			●										製造課
	⑩自主保全力UPによるロスの是正				●		●		●		●		●	製造課
	⑪WEB会議・打合せの積極的利用			●			●			●			●	総務課
	⑫遮熱塗料の有効活用									●	●	●	●	製造部
	⑬原因分析と削減方法の検討			●			●			●			●	製造部
水資源投入量の削減	①水量メータの確認(漏水防止)と推移の監視	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	製造課
	②節水表示 制水等	●						●						総務課
	③製造循環水の回収率up、点検実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	製造課
	④原因分析と削減方法の検討			●						●				製造部
廃棄物の削減	①油類の使用管理とムダの排除	●				●				●				製造課
	②アルミカス置場の整備と分別の徹底	●			●			●			●			製造課
	③廃油分別回収の徹底	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	製造課
	④ペーパーレス化の推進		●			●			●			●		総務部
	⑤梱包・物流資材の廃棄量削減	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	総務課
	⑥工場消耗品費の各課集計と分析			●			●			●			●	総務課
	⑦原因分析と削減方法の検討			●			●			●			●	製造部
化学物質削減 使用量	①規制化学物質の情報収集	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	総務部
	②SDSの収集と確認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	総務部
	③該当化学物質使用量の調査(アセスメント含む)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	総務部
不 低 減 率 の	①製造不良率の低減	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	品証部
	②検査不良率の低減	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	品証部

## V. 環境経営計画の取組結果と評価及び次年度の取組内容

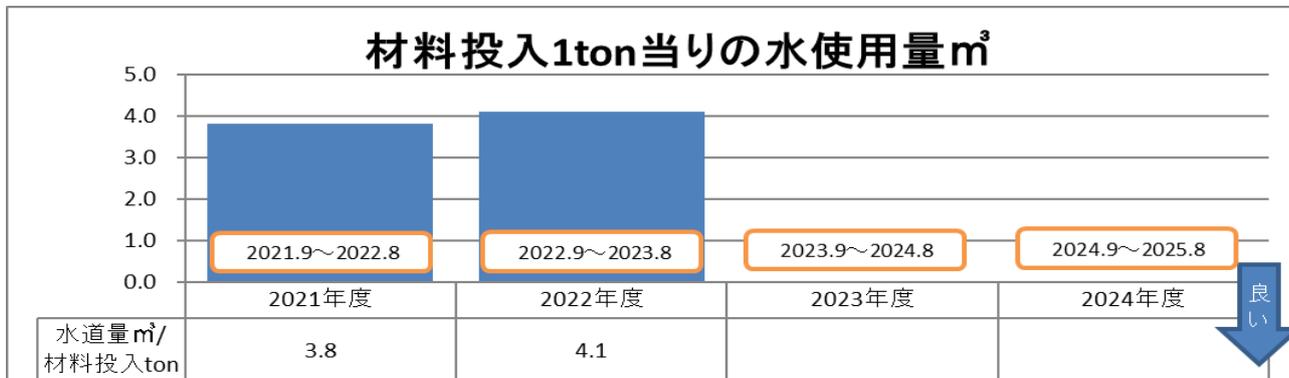
No. 項目	実施事項	取組内容	評価			
			取組み	目標	達成	
1 二酸化炭素排出量の削減	①不要設備の電力OFF・照明具の適切性評価の推進	・設備待機電力OFF、省電力モードの利用、 ・不要照明OFF、水銀灯から蛍光灯へ変換	取組み	○	目標	達成
				2021年度基準 排出量6.4%低減		
	②空調設定温度改善への挑戦	・エアコン適正温度「チャレンジール」表示 ・ブラインド、よしず、遮光ネット、仕切りカーテンの利用	CO2排出量は今年度目標の1008kg/トンに対し、実績は953kg/トンで目標達成となった。			
	③エアコン清掃の実施・省エネ機買換え推進	・月一回清掃実施(清掃基準・チェックシート作成) ・エアコン省エネ機買換え(6月)	目標達成の内訳はLPガス使用量が今年度目標に対して6.6%低減、電気使用量も5.6%低減と、それぞれ目標値を達成したことによる。			
	④デマンド機器による電力ピークカットの実施	・デマンド装置監視で電力のピーク使用を制限 ・空調使用時間の制限	目標達成の要因については、①受注及び生産の乱高下が少なく、安定状態が続いたことにより、生産量・稼働率が良好だったこと			
	⑤コンプレッサの適正稼働の評価と改善	・適正稼働状態の評価実施(分析業者支援有) ・是正箇所、改善箇所の改修	②老朽化により燃費の悪化したホーメル炉を入れ替えたことによる省エネ効果の二点が挙げられる。			
	⑥蛍光灯のLED置き換えによる省電力化	・置き換えLED蛍光灯の選定 ・老朽灯器具の計画的な置き換え	今後の取り組み			
	⑦生産計画によるエネルギーロス低減	・生産計画調整による休止設備の選定 ・長期休暇前後の最適生産計画の立案	72期の実績を新たなBM年度とし、3カ年目標を設定し活動を展開する。			
	⑧溶解保持炉の点検・清掃・部品交換	・炉内整備・修繕により燃費効率の向上 ・炉メーカーによる清掃方法の教育実施	重点取組内容として			
	⑨溶解保持炉の更新・改良	・省エネ機への更新(5月) ・断熱シート加工による溶解炉省エネ化	・老朽溶解炉の更新(助成金活用)			
	⑩自主保全力UPによるロスの是正	・メーカーによる点検ポイントの勉強会実施 ・点検基準書作成と運用	・ダイカストマシン更新による省エネ、油漏れ等の環境負荷改善(73期中)			
	⑪WEB会議・打合せの積極的利用	・WEB会議ソフト勉強会の実施 ・基準書作成と運用	・新倉庫建設による物流改善で運搬にかかる軽油使用量等のコスト低減			
⑫遮熱塗料の有効活用	・仕上棟、下屋の屋根への断熱塗装施行					

当社の二酸化炭素排出量は、全体の64%がLPG、35%が電力使用によって発生しているため、LPG使用量削減と電気使用量削減を二本柱としています。

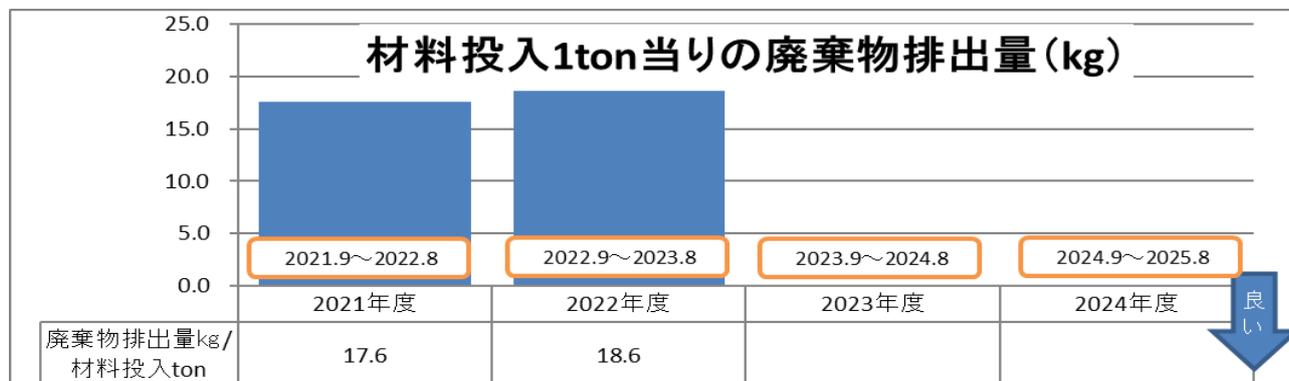


No.	項目	実施事項	取組内容	評価			
				取組み	△	目標	未達成
2	水資源投入量の削減	①水量メータの確認(漏水防止)と推移の監視	・ 鑄造用水量の確認時にパイロットの確認	2021年度基準 使用量6.6%増加	BM目標に対して7.1%の未達成。大きな漏水は無いが、設備の老朽により冷却水の循環が停滞し、水使用量が増加している。		
		②節水表示 制水等	・ 節水表示による意識の向上 ・ 水冷用水の適正量の評価と実施				
		③鑄造循環水の回収率up、点検実施	・ ホース接続の確認と外れ防止の改善 ・ 鑄造作業標準の再教育と新人社員教育	今後の取組み			
				老朽配管の整備(配管内清掃・配管引き直し)を推進し水使用量の低減を図る。			

当社の水使用量削減活動は、前期に続き、最も使用量の多い鑄造工程での金型冷却水の使用量削減を目指しました。



No.	項目	実施事項	取組内容	評価			
				取組み	△	目標	未達成
3	廃棄物の削減	①油類の使用管理とムダの排除	・ 置場の2S3定による在庫量の見える化 ・ 使いきりの徹底、洩れ箇所の全バラ修繕	2021年度基準 排出量5.6%増加	鑄造工場の生産増により、機械油の漏洩が前期比6650リットルの増加。バレル汚泥も2950キロの増加となり、廃棄物重量増加となった。その他の廃棄物は横這い。産廃再資源化率は71.8%。		
		②アルミカス置場の整備と分別の徹底	・ 野外置場の設置と整備				
		③廃油分別の徹底	・ リサイクル油の分別回収徹底	今後の取組み			
		④ペーパーレス化の推進	・ 会議体での紙書類から電子化への変換 ・ 教育資料の電子化	現状では生産増に比例して廃油や汚泥が排出されている。今後はその比例の度合いを低減する活動(油漏れ修繕、バレル研磨工程の研磨剤コンパウンド及び水使用量の適正化など)を推進する。また、産廃の最終処分(埋立)重量を低減し、再資源化率の向上を図る。			
		⑤梱包・物流資材の廃棄量削減	・ ストレッチフィルム使用の作業標準作成 ・ 異種通い箱、パレットの返却				
		⑥工場消耗品費の各課集計と分析	・ 問題点の抽出と検討及び改善提案制度導入 ・ 各課集計情報の公開と削減意識の高揚				



No.	項目	実施事項	取組内容	評価			
				取組み	○	目標	ー
4	化学物質使用量の削減	①規制化学物質の情報収集	・規制化学物質の調査	取組み	○	目標	ー
		②SDSの収集と確認	・SDSの収集・保管及び問題点に対する対応	不使用を維持。			
		③該当化学物質使用量の調査	・該当化学物質の使用、保管量の把握 ・必要に応じてアセスメントを実施	今後の取組み 今後も化学物質の監視を継続する。			

No.	項目	実施事項	取組内容	評価			
				取組み	○	目標	達成
5	不良率の低減	①鑄造不良率の低減	・不良改善会議での原因と対策の検討 ・鑄造条件、金型方案の見直し ・金型定期メンテの実施	取組み	○	目標	達成
		②検査不良率の低減	・不良情報の各課へのフィードバック ・生産試作段階での情報落とし込みと仕組み作り ・作業者の検査力向上訓練	社内向上計画目標を達成。 今後の取組み 生産準備段階及び量産後の品質力向上を図ってゆく。			



## VI. 環境関連法規等の遵守状況と評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

### 1. 環境関連法規等の遵守状況

No.	主な適用法規	当社の対応	遵守状況
1	下水道法	除外施設の届出 排水水検査の実施	遵法
2	騒音規制法	特定施設(空気圧縮機)の届出 騒音測定	遵法
3	振動規制法	特定施設(空気圧縮機)の届出 振動測定	遵法
4	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	マニフェストの管理及び交付状況報告 産廃業者の許可証及び違法行為の有無	遵法
5	消防法	危険物貯蔵取扱の届出 消防用設備等設置の届出	遵法
6	フロン排出抑制法	エアコン簡易点検の実施と記録	遵法

### 2. 遵守状況の評価結果並びに違反・訴訟等の有無

環境関連法規につき、遵守していることを確認しました。  
近隣、関係当局よりの違反等の指摘、訴訟等もありませんでした。

## VII. 代表者による全体の評価と見直し・指示

期を通して受注の変動が少なく、比較的安定した生産体制で1年を終えることができました。エネルギー効率も良好だったことで、電気ガスの原単位使用量も目標値を達成し、生産原単位当たりのCO2排出量もBM年度比-6.4%の低減で目標値を達成しました。

しかし、水使用量と廃棄物排出量についてはBM目標値に対して未達成となりました。水使用量については大きな漏水はなかったものの、老朽配管の詰まりにより冷却水の循環が停滞し、水使用量が増加した状態となっております。廃棄物排出量も廃油や汚泥の排出量増加により原単位排出量が増大しております。

今後の取組みとして、

- (1)溶解設備及びエア圧縮機の保全活動を行いながら、順次設備更新を実施してまいります。
- (2)今期の課題をEMS、QMS、TPMの活動と融合し、各部各課の向上計画に盛り込み展開のやり切りを図ってまいります。
- (3)「生産管理システム」を改善活用し、生産ロス・在庫ロスを低減してまいります。
- (4)不良低減活動を進め、不良によるエネルギーロスの低減を図ってまいります。
- (5)MFCAやSDGsについても積極的に取り組んでいきます。